

菊川の“かわまちづくり”

特集



古来より、生活の源として利用されていた河川の水辺は、近代化とともに、かつての賑わいを失ってしまいました。しかし今、新たな資源として地域の「憩いの場」となるよう菊川でも河川を活かしたまちづくりが進められています。

問 建設課管理係 (☎35-0902)

生活の源だった河川

水辺は、古来より生活用水・農業用水などの供給源として、魚などの食料を求める場として、また重要な交通路として、さまざまな面から人々の暮らしに欠かせない存在でした。しかし、水道の普及や産業の近代化などにより、日常生活の中で人々との関わりが希薄化していきました。

河川を活かしたまちづくり

生活の中心だった河川が形を変え、新たな資源として地域の「憩いの場」や潤いとなるような空間形成を目指し、国土交通省では「かわまちづくり」支援制度を設けています。「かわまちづくり」とは、『河川空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取組』のこと。全国各地でこの制度が利用され、各地域の特性と河川が持つ力を活かしたまちづくりが広がっています
(写真1、2)。

写真提供：盛岡市、大垣市



令和5年度かわまち大賞・岐阜県大垣市
水辺の広場で「水都」を感じる風景づくり



令和4年度かわまち大賞・岩手県盛岡市
誰もが日常生活を過ごせる居場所を提供